



第11回塙保己一賞受賞者のみなさん

## 群読劇をとおしての顕彰活動(幸手市にて公演)

文：顕彰会事業委員 荒井 一夫

本庄市以外で「塙保己一物語」の群読劇が公演されたのは、初めてのことであり大いに歓迎されることです。この公演は、埼玉県の大人物の一人である塙保己一の生き方、考え方を多くの人たちに知ってもらいたいと、幸手中央ロータリークラブの創立二十周年記念事業として同クラブが、主体となり実施されました。私は、顕彰会の事業委員のほかに、群読劇塙保己一物語の劇化実行委員を務めている関係で、幸手市のみならず、幸手市以外でも、さまざまな助言を行い交流も深めました。幸手市での群読劇の開催の経緯と準備段階からの歩みを振り返ってみます。

- 一 本庄市民文化会館(平成二十九年八月十一日に公演)で、幸手市中央ロータリークラブのみなさんが、群読劇を観劇。
- 二 平成二十九年八月、幸手中央ロータリークラブで自主的な勉強会を開催。
- 三 公演開催日が決定となる。
- 四 平成二十九年十月、塙保己一への理解をより一層深めるため顕彰会会員を講師として招き研修会を実施。
- 五 脚本(顕彰会事業委員・根岸久氏作)については、基本的に本庄公演のものを借用し、時間の短縮を目指す。
- 六 配役については、子供、大人ともに、幸手市在住者より募り、三十二名の出演者を決め、公演の成功にむけ稽古を重ねる。
- 七 平成二十九年十一月二十六日、幸手市北公民館にて公演。

当日は、約三百名の来場者で、満席状況のもと開幕となりました。約六十分間の公演でしたが、短い準備期間にもかかわらず、出演者一人一人が、楽しむかのように役柄を演じ、会場と一体となつての群読劇になりました。特筆すべきは、埼玉県の上田清司知事が、出演し、松平定信役として熱演されました。会場からは万雷の拍手を浴びました。



## 顕彰会への加入・継続をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会は、平成19年7月26日に市民参加による顕彰会として発足いたしました。顕彰会では、塙先生の遺徳と事績を広く顕彰し、その精神の普及を図ります。毎年、命日の9月12日に塙先生の遺影に菊の花を捧げる顕彰祭を開催するほか、説明会など各種啓発事業を行っています。



みなさまのご加入・会員継続をお待ちしております。

年会費 個人会員 一口 千円、賛助会員(団体) 一口 一万円

入会と会費納入の受付場所 本庄市役所4階生涯学習課と本庄市児玉文化会館(セルディ)、アスパアこだま内の児玉公民館で受け付けています。

※ 郵便振替でもお申込みいただけます(ご希望の際には、下記へご連絡ください)。

### 発行 総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

事務局 本庄市教育委員会 生涯学習課 本庄市児玉文化会館(セルディ)内

所在地 〒367-0216 埼玉県本庄市児玉町金屋728-2

電話 0495-72-8851 FAX 0495-72-8854

※点訳ボランティアグループ「ほきの六点会」の皆様により会報誌の点字翻訳版を作成していただきました。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

ごあいさつ

風かおる五月、新緑がまぶしいさわやかな季節になりました。会員のみなさまもご健勝のことと拝察いたします。

合併後の顕彰会の発足から今年で12年目を迎えます。その間に大きな事業としては、墓所の移転や本庄早稲田駅前の銅像の建立を行いました。また、毎年の恒例行事として総会や顕彰祭、埼玉県と共催の塙保己一賞を実施しています。その他、新しい記念館の開館、実行委員会による群読劇の開催等、顕彰会以外でも塙保己一についての様々な取り組みが行われました。

そんな中、顕彰会として大きな節目となります没後200年の記念事業について、昨年より議論を重ねて参りましたが、具体的な形が見えてまいりました。事業の内容については、役員会のご承認をいただけてみなさまにお知らせしたいと考えております。今後とも皆様からの更なるご支援とご協力をお願いいたします。

総検校塙保己一先生遺徳顕彰会

会長 吉田 信解



# 平成30年度 顕彰会 総会を開催します。

日時 平成30年5月26日(土)  
午後1時30分 受付開始  
午後2時 開式

会場 セルディ ホール

内容 前年度事業報告・決算報告・  
今年度事業計画・予算審議

記念講演 新井 淑則氏(第10回 塙保己一賞特別賞受賞)  
演題 「心はいつもバリアフリー」  
～共生社会をめざして～

昨年の総会の様子



新井先生とリル

新井淑則氏(現職:皆野町立皆野中学校教諭)

在職中に失明され、全国で初めて普通学校の先生として、復職を果たされました。障害のある方もない方もともに活躍できる共生社会の実現に向けた具体的な事例として評価され、塙保己一賞の特別賞を受賞されました。復職後は、各地でご自身の体験を通して「共生社会」について講演活動をなさっています。こうした活動が、メディアにも多数取り上げられています。

※当日会場では、「総検校塙保己一先生の顕彰事業の足跡」を配布する予定です。

## 塙保己一「ふじも」

(提供:公益社団法人 温故学会)

群書類従の版木を保管する公益社団法人「温故学会」から「塙保己一「ふじも」と題した小冊子が刊行されました。温故学会のご協力により、掲載させていただくことになりました。子供からお年寄りまで、読みやすくわかりやすいお話となっております。

### 第一編 保己一と「般若心経」について

塙保己一は、十六歳の時から亡くなるまでの約六十年間、「般若心経」を毎日百巻、合計すると実に二百二十万巻を読誦しました。本庄市児玉町にある塙保己一記念館には「般若心経読誦巻数覚帳」が残されておりますのでそのことがわかります。では、どのような理由から保己一は「般若心経」を唱えるようになったのでしょうか？

唐の国(中国)に玄奘三蔵(六〇二〜六六四)という高僧がいました。孫悟空が登場する「西遊記」の三蔵法師のモデルとなったお坊さんです。仏教の経典を求めて唐を出発し、インドに向かい大量の貴重な文献を持ち帰りました。玄奘三蔵は「この十六年に及ぶ大旅行は苦難と危機の繰り返しだった。これを取り越えられたのは、般若心経を唱え続けたからだ」と述べたのです。このことから、般若心経は目標達成に効き目のあるお経であると多くの人々に信じられるようになりました。

保己一は、「群書類従」編纂刊行の目標達成と生涯健康でなければ大願は成就しないと考え「般若心経」の力に頼ったのです。朝起きてから寝るまで一日に百巻、多い時には五百巻も唱えています。私たちですと一回二〜三分かかります。保己一なら一分程度かも知れません。それでも、一日百分は相当なものです。まさに、信念の人だったと言えます。

## 平成二十九年 顕彰会 事業報告

### 二十九年 総会 顕彰祭

五月二十七日、児玉文化会館セルディを会場に平成二十九年 顕彰会総会を開催しました。当日は、会の運営についての審議、承認されました。総会后、顕彰会事業部会委員である根岸久氏による「群書類・塙保己一物語よもやま話」と題した講演が開催されました。



塙先生の命日である九月十二日にセルディで開催されました。遺徳顕彰祭では参加者全員が塙先生の遺影に菊の花を捧げ遺徳をしのびました。

の協力を行いました。当日は、障害がありながら社会的に顕著な活動をしている人や団体など4名が表彰されました。表彰式後にはシンガーソングライターで全盲の大嶋潤子氏による記念コンサートが行われました。



### 塙保己一賞

十二月十六日、セルディで行われた埼玉県主催・本庄市共催による塙保己一賞へ

温故学会外観



### 温故学会訪問

3月10日に顕彰会事務局2名を含め有志7名の合計9名で渋谷の温故学会を訪問しました。温故学会の成り立ちや渋沢

栄一とのかかわり等貴重なお話を伺いました。そのあとで、版木が保存されている倉庫の見学をしました。200年以上も前に彫られたものが、補修を行いながら今に伝えられていました。平成30年は、この版木を使って群書類従版行200年記念として「徒然草」を始めとして摺り立てが行われます。和紙の不足により、今後の摺り立ては、未定とのことでした。



### 金屋小学校児童 授業で「塙保己一」について学ぶ

本庄市立金屋小学校は、塙保己一の出身地の学校ということもあり、塙保己一について学んでいます。毎年温故学会との交流が行われていて、今年も1月30日に温故学会の齊藤幸一理事長と夫人の昌子さんを迎えて、同小3年生の児童が塙保己一についての授業を受けました。齊藤理事長は、紙芝居を使って、塙保己一の生涯やその功績、人柄をわかりやすく子供たちに伝えました。